

平成28年度川崎市地域自立支援協議会第2回全体会議 摘録

日 時：平成28年11月7日（月）13：30～16：00

場 所：川崎市役所第3庁舎15階第1・2会議室

出席者：行實会長、大場副会長、大窪委員、田口委員、土屋委員、西巻委員、日野委員、美和委員
小川委員

事務局：坂本、原田、小川、野末、中里、佐治、島津、若井、野原、濱福、牧田、鈴木、湊上、伊藤
川上、林田

行 政：地域包括ケア推進室佐藤室長、地域包括ケア推進室岩丸担当課長

傍聴者：1名

1 開会あいさつ

（行實会長よりあいさつ）

2 市企画運営会議報告

（企画運営会議構成員より、次の資料に基づき説明。）

資料2-1 「平成28年度の体制変更について」

資料2-2 「目標の達成に向けて」

資料2-3 「平成28年度課題整理ワーキング報告」

資料2-4 「平成28年度川崎市地域自立支援協議会連絡会について」

質問・感想

会長	（「目標の達成に向けて」質疑応答）
委員長	質問はあるか。
事務局	SWOT分析と今後の予定に出ている2つに組みの繋がりがよくわからなかった。どういうふうに繋げていくのか教えていただきたい。
委員	手引きを使っていく前提はあるが、それ以前の問題として色々と整理しなければいけない課題がある。すぐに短期目標に到達しないかもしれないが、工程としてこれらの課題がある中で、重要視して取り組んでいくことと、弱みと脅威から見えてきた問題に、サービスの担い手が少ないため協議会への参加率も悪くモチベーションが低くなることとあわせて取り組むことで協議会が活性化し、手引きも使っていただけるようになるのではないかと狙いがある。
事務局	自立支援協議会を活性化させていくという前提で、基本的なところからやっつけようということか。
委員	その予定である。
事務局	先ほどの委員と同じ疑問を感じている。この目標は市自立支援協議会全体の目標だと思うが、今後の予定の中身をみると“協議会として”というより企画運営会議の皆様が自立支援協議会を活発化させるエンジン役としてしっかり立ち回るための目標と見え、矛盾を感じる。SWOT分析の部分は区協議会でも報告をいただいているが、この分析

会長	<p>は偏りがあるように感じる。区協議会でもサービス提供事業所、教育機関、当事者でも他に課題があるのではないかというご意見が出ていた。企画運営会議と市協議会があまりリンクしていないように感じる。今後市の協議会としての視点を入れて動いていただければと思う。</p> <p>自分達は何をどうしていけばよいのか、何をしたいのかが見えてこなかったり、企画運営会議の中で、取り組みをどう伝えるかといったときに、まず協議会に来てくれないから伝わりにくいという課題があがったのだと思う。そこで、きてもらうためにどうするのか、皆が一緒にやっていることを考えてもらうためにはどうするのかという形で情報提供やお互いの業務について考えてみるということが市全体の流れという風に理解したがよろしいか。その辺りを踏まえて実際動かしていく上で具体的な部分を各区等から挙げてもらいながら検討していただきたい。</p>
委員	<p>(「平成28年度課題整理ワーキング報告」 質疑応答)</p> <p>課題提出票について、何を書いてよいか分からないという意見が施設でも複数あった。面談等直接聞き取りを行う方が上手く行くのではないかと思ったので、直接話ができる機会があれば良いと思う。</p>
委員	<p>課題の抽出の方法など色々苦労されていることがよくわかった。実際に出てきた具体的な内容などいくつか教えていただけるか。</p>
事務局	<p>現状、具体的な課題の取り上げまで至っていない。この半年間の区協議会の取り組みを、手引きの課題の取り扱いから課題にして行く作業をはじめており、実際今まで取り扱ってきた課題も含めて、標準化する形で精査をしてもらっている。各区によって状況が異なるため進捗もそれぞれだが、標準化ができてきたところである。</p>
委員	<p>(「平成28年度川崎市地域自立支援協議会連絡会について」 質疑応答)</p> <p>災害時のことについて、例えば首都圏において311や熊本地震のような大災害があった時に相談支援従事者もまた被災者となり、支援しようにもできない状況になることが考えられる。今後その辺りをどう考えるのかという課題を感じる。</p>
事務局	<p>今回記載していないが、いただいたアンケートの中にそのような内容があった。全て平常時通りにはいかないかもしれないが、SWOT分析を行う中でも、あらかじめ災害マニュアルなどを行政がホームページで公開していたり、相談支援センターによっては被災時に優先的に訪問確認を行うためのリストアップとマップを作成している。非常時に慌てず対応するための準備が必要だと考えている。</p>
会長	<p>顔の見える関係ができていることが大切だという話が出ていたが、そこは地域自立支援協議会の普段からの課題でもあると思う。共通課題であることを、災害時にやはり知っておけばよかったという事態にならないようなシステム作りを心掛けて行って欲しい。その他にあるか。</p>
委員	<p>課題整理ワーキング報告の書式のところで、今後当事者に対し「こうだと書きやすい」等の意見の聞き取り予定はあるのか。</p>
事務局	<p>書く側が書きやすいものではなく、出しやすい形はどういうものなのかというところで、一旦各区で当事者の方も構成員として参加されているので、十分ご意見を頂いた上</p>

会長	で修正を図っていききたいと考えている。今しばらくお待ちいただきたい。
委員	このようにしたら良いのではないかと、ここがやりにくいなどどんなに小さなことでも意見を出していただけたらと思う。
事務局	課題整理ワーキングで、書式の件も含め、挙がってきた課題の精査した結果を各区に戻すという区協議会と市協議会の循環が上手くいくとモチベーションの維持に繋がるのではないかと。また連絡会の防災について資料 18 ページの SWOT 分析の部分は市の企画運営会議でされているということか。
委員	連絡会のメンバー3人で先ほどの報告のような形式で SWOT 分析を行った。その中で、今回報告したところ以外で積極的に防災に取り組んでいる、被災地支援に参加した実績のある人達や、法人単位で防災体制を整えているところもあるということが、ひとつひとつ挙げていく中で確認できたことである。防災体制を整えていくことと、今回特に相談支援ということで SWOT 分析をかけていたので、テーマとしてやはり相談支援中心のものになっている。まだ分析を始めたところなので、優先順位についてはリストアップと整理が必要であるという考えから 29 年度からという書き方をした。
事務局	それでは、災害時における相談支援について深めていくということによろしいか。
委員	そのように考えている。
会長	防災に関しては連絡会やシンポジウムなど市協議会でも何回か取り上げられてきた中でも、障害のあるなしに関わらず人とのつながりであるという話が出てきていたと思うので、地域の人ともタイアップしていくなどの取り組みもお願いできればと思う。
事務局	防災と SWOT 分析の受け手送り手も使いやすい情報を整理するという点がリンクしてくることもあると思う。相談支援だけではなく、防災のところで、情報として相談までいかなくとも見ればわかるというものが作れば使えると思う。他の市区町村でも障害者も含んだ市民全員で防災訓練を行った。その時、首につける、バンダナをつけるなど色々な方法で障害者のマークをつけたが目立ちにくかったり、首が閉まってしまうなどの問題があった。また、視覚聴覚障害の方は呼ばれて来たが、周りはバタバタしていて自分だけ状況が分かっていない状態があったようである。防災のマップや情報をまとめるだけではなく実際に防災訓練をやってみないと問題点が分からないと思う。課題整理のシートについても実際書いてみて問題点が見えてきた。今後実際にどう動かしていくのかを考え、机上論にならないようにしていただくととてもよいものになると思う。

3 専門部会報告

(資料 3-1、3-2 に基づき各専門部会より説明。)

専門部会の取り組みについて質問や感想

委員	(精神障害者地域移行・定着支援部会についての質疑応答)
事務局	支援のすそ野を広げるということだが、具体的にはどういうことか。もう一つ、長期入院をされていて地域移行支援に繋がった方の住まいの比率が分かれば教えてほしい
事務局	まず、二つ目のご質問について、申し訳ないがまだそこまでの議論ができていないので本日はお答えできない。支援のすそ野を広げるということについては資料 20 ページ

委員	<p>の現状課題を改めてご確認いただければと思うが、現状は地域移行支援を行う事業所が限られている、その背景には再編前に精神障害者の支援をしていた事業所がそのまま行っているに留まり、それ以外の事業所については取り組みきれていない。また、地域移行定着支援も個別給付を受けるか否かということもあるが、件数が増えないことから、やはりすそ野が広がっていないのではないかとということで長期課題に設定している。</p> <p>病院に対してのアンケートのところで、具体的にどの程度病院側の協力が得られるのか、その結果の数に対しての取り組みや病院とのやり取りについてうかがいたい。</p>
事務局	<p>アンケートについては病院のソーシャルワーカーへ協力を依頼するが、事前に院長へ承諾を得ている。また実際の対象者の数もアンケートを実施してみないと分からない部分ではあるが、対象者数を把握することで見えてくる課題もあるかと思うので、数を明らかにしてからどういう手立てをとっていきべきなのか、12月と2月の部会で話し合うことを予定している。</p>
委員	<p>すそ野を広げるという部分で、全ての地域相談支援センターに関わるという考え方はよいと思うが、知的障害者の子供を持つ身としては、やはり前身で知的を中心にやってきた事業所を薦めると思う。平均化を目指すのではなく前身で培った知識を大事にしてそれぞれに専門性があって良いと思う。</p> <p>(相談支援部会についての質疑応答)</p>
委員	<p>ミラクル Q とはどのようなものなのか。また、相談の種類に応じて分類していくケース分類について教えてほしい。</p>
事務局	<p>まずミラクル Q とはソフトの名称で、個別相談の記録や私たちが日頃行う全ての業務の時間を打ち込むことで一日の従事体制がわかるようなシステムである。川崎市では委託の相談支援センターは全て導入している。一般的な業務ソフトと似たようなものである。ケース分類については、委託相談業務と計画相談業務とあるが、計画相談は実施しているものの現状ではあまり動きの無い方や集中して支援をしている方を分けて、個別のケース対応業務に追われて協議会の業務になかなか取りかかれず現状があり、個別ケースの可視化を行い支援移行が可能かの確認・整理をしていくという目的でケース分類を設定している。</p>
委員 委員	<p>区によって移行ができたりできなかったりという差が無いようにすると良いと思う。</p> <p>相談支援の課題で、指定相談へのケース分類とあるが、そもそもその指定相談事業所が増えない、なぜ指定相談事業所が成り立たないのかという部分が大きいのかなと感じているので正直上手くないのではないかとも思う。ミラクル Q については私も今日初めて聞いて勉強になった。忙しい中、皆さんどうやって業務をこなしているのかと思っていたが背後にこういったシステムがあることを知り感動した。評価の部分については、以前自分も参加していてその難しさは知っているが、相談支援の質の向上という目標があったような気がするのでそれがなくなるのは寂しく感じる。</p>
委員	<p>ミラクル Q について、私個人としてはそもそも普段の業務に追われてまとめて入力したりしているが、入力時間が惜しく感じている。去年まで相談支援の質の向上であったり、相談支援部会と研修部会があったり、目指す相談支援専門員像や相談する側の視</p>

事務局	<p>点があったが、報告を聞いて今年については率直なところ業務管理的な印象が強い。委託相談もそれぞれの法人の得意分野・特性もあるが、三障害児童も含め相談がきたらなんでも受ける、計画相談は何件までという決まりも今はあやふやになっている中で、確かにケース分類での整理は必要だと思うが、難しくも思う。ミラクル Q での相談支援専門員の業務の可視化で効率化を図ることはできると思うが、支援を受ける側の視点も忘れずに取り入れていって欲しい。評価については全く実施しないということか。</p> <p>今年度についてはケース分類およびミラクル Q の活用の優先順位が高いと考えられたため、まずこちらに取り組んでいきたい。決して必要がないと考えているわけではない。今後も検討を進めていきたい。</p>
会長	<p>ケース分類とミラクル Q を活用し可視化していくというのは、最初に出てきた SWOT 分析の 1 の部分につながってくるということか。その辺りと自分達が何をしなければいけないのか、その先には相談の質や利用者の方達がいることを忘れずに自分達の業務を整理していただきたい。</p>

4 各区自立支援協議会の報告

(資料4-1から4-8に基づき各区より説明。)

各区自立支援協議会の取り組みについて質問や感想

委員	<p>(川崎区の取り組みについて質疑応答)</p> <p>高津区の自立支援協議会に参加しているが、地域包括支援センターとの交流会が今年で2年目だが、川崎区では5年目になって何か課題が見えてきて今回目標の見直しがあったのかどうなのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>交流会は協議会の中で行ってきたが、実際に地域包括支援センターの方に話を聞いたところ、協議会として行う前にまず支援センター同士のつながりから始めてはどうかというご意見があった。それを受け止めた上で今年度以降は原点に戻り一度相談支援センター同士の交流を行うこととなった。</p>
委員	<p>(中原区の取り組みについて質疑応答)</p> <p>放課後デイサービスの交流会を行ったということで、幸区も放課後デイが増えているが相談があってもこちらも状況がわからず困る場面が多くあるが、参考に事業所を集めてどういう主旨で話し合いを進めたのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>顔合わせを行う機会がそもそもないため、各事業所の自己紹介から困っていることなどを率直に話し合っていた。区の方からも係長または担当者が出席し事務的なところで答えられるところは回答していただいた。一人のお子さんでも色んな事業所を重複している場合もあるので、横の連携も作っていければよいと思っている。</p>
委員	<p>(高津区の取り組みについて質疑応答)</p> <p>皆の居場所作り会というのはどれくらいの方が参加し、どの様にして参加者を募っているのか。</p>
事務局	<p>一行事ごとに当事者の方が2~3名、通年通して参加は5~6名いらっしゃる状況。まず構成員の顔見知りの方にお声掛けをしている。いずれはもっと増やしていきたいと</p>

	いう話も出ている。
--	-----------

6 その他

会長 委員	<p>全ての報告等が終わったが、全体を通して何か質問があるか。</p> <p>今回の議題と関わりがあるか分からないが、自分自身 23 歳の時に精神病を発症し、家内も精神障害をもっている。兄弟も精神障害を抱え、長く障害をもった家族と接している。様々な施設や相談支援へ行ったが、社会資源に繋がっているような方達は自分にしてみれば幸せな人達で、自らサービスを拒んだり卑下したりする人もいるが、各区のご報告からどこも普及啓発に一生懸命取り組んでいただいているので、一人でも多くの方が社会資源へと繋がり、三障害の苦痛が癒されるよう願ってやまない。</p>
会長 委員	<p>他にご意見等あるか。</p> <p>以前にもお伝えしことだが、幸区の父親とのつながりというのはとても良いテーマだと思っている。しかしサッカーイベントチラシに父子で楽しむと書いてあって、意気込みはとてもわかるのだが、せっかくチラシを送っていただいても中には母子家庭の利用者もいるので配りづらいという意見があった。親子で楽しむなど書き方を変えていただくなどしていただくと配り易いと思う。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今年で 4 回目を迎えるイベントだか、今いただいたようなお話は他の方からもいただいている。しかし、その表現を変えてしまうと、主旨が違ってきてしまうのではないかという葛藤もありこの形に落ち着いた。ご家族で来ていただいた上でお父さんとお子さんが楽しんでいただく場は想定しているので、こちらの主旨が伝わるような書き方を心掛けて次年度以降検討していきたい。</p>
会長	<p>言葉やチラシというのは一人歩きしてしまう部分もあり、ある意味共通課題ではあるので各委員会でも話し合っていて欲しい。</p>

7 閉会

(閉会あいさつ)

以上